



2024年5月28日撮影

細谷優子 永田ひとみ

坂和章平弁護士 岸田万理子



週1回出勤の宮本三恵子

1979年7月の独立直後から事務局長に就任し、法律事務全般の他、日本環境会議の事務局の仕事等も処理した彼女が40年ぶりに復帰。パソコン全般の他、裁判案件を担当！



最新刊！『シネマ55』

2024年7月出版

定価1,200円(税込)

◆ 業務時間・アクセス ◆

平日 午前9時～午後6時 土日祝は休業

【大阪メトロ堺筋線・谷町線「南森町駅」から】

2番出口を出て左へ（西へ）。阪神高速の高架に向かって進む。高架をくぐったところになにわ北府税事務所があるので、その手前で左に曲がり、高架沿いに直進（南下）。1つ目の信号（西尾倉庫・みなみの森保育園の手前）で右に曲ると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。



【地下鉄堺筋線・京阪「北浜駅」から】

2番出口を出てすぐの難波橋を渡る。2つ目の信号（Y字路の交差点「西天満1東」）を横断せずに右へ進むと阪神高速の高架があるので、その手前の信号「菅原町西」で堺筋を北へ横断。高架沿いに直進（北上）し、2つ目の信号（左手に西尾倉庫・みなみの森保育園の看板）で左に曲ると、右手に西天満郵便局がある。その3軒西隣が西天満コートビルです。

暑中お見舞い申し上げます。

第1 ウクライナ戦争の行方は？和平への道は？逆の道は？

- 1) 『アトランティス』(19年)、『シネマ51』133頁)は現実のウクライナ戦争の“あの州”“あの製鉄所”を舞台とする生々しい映画だった。他方、陥落から2年を経て日本で上映されたのが『実録 マリウポリの20日間』(23年)。平和で豊かな国に暮らす私たち日本人は、ウクライナ東部の激戦地となったマリウポリ陥落の姿をビールを飲みながらTVで見たが、大スクリーンで見るその激戦ぶりは？
- 2) 支援疲れが目立つ中、欧米諸国はゼレンスキー大統領の求めに応じて懸命の支援を続けているが、ロシアはそれ以上にしたか。5期目に入ったプーチン大統領は中国との連携を密にしながら一層の長期戦に備えるべく諸体制を整え、「大が小を飲み込むのは当然」との姿勢を貫いている。したがって、“もしトラ”が現実になれば、領土の一部割譲を認めた上での和平＝戦争終結が実現する可能性も！
- 3) 米欧の支援は一貫してロシア国内への攻撃に及び腰だったが、ハルキウ州での劣勢が続く中、ついに米国は5/31、米国製供与兵器によるロシア領内への限定的な攻撃を容認した。この戦略の大転換に対するロシアの反発は必至だ。NATO(北大西洋条約機構)との緊張が高まれば、プーチンはいよいよ限定的な“戦術核”の使用に踏み切る恐れも！さあ、“泥沼状態”が続いているウクライナ戦争の和平への道は？逆の道は？そして、こんな現実をあなたはどうか考える？

第2 イスラエル VS パレスチナ戦争の行方は？

- 1) 2023年10/7のハマスによるイスラエルへの奇襲から8ヶ月が経過した。ネタニヤフ首相は、目標として掲げる「ハマス壊滅」のために、ハマスが構築した“過去最深、最長”の地下トンネルを徹底的に破壊したのに対して、ガザ地区への侵攻を続けているが、民間人の犠牲を無視した軍事攻勢には次第に批判が強まっている。
- 2) そんな状況下、1948年の建国以来の強固な同盟国である米国の支援にも翳りが出始めているが、国際刑事裁判所(ICC)の検察局が5/20、首相らに戦争犯罪や人道に対する犯罪の容疑で逮捕状を請求したからビックリ。バイデン大統領は「言語道断」、ネ氏は「歴史的暴挙」と反発したが、その成り行きは？レバノンに逃亡した日産のカルロス・ゴーン元会長に対するフランスの検察当局による逮捕状請求には世界中が納得したが、今回の措置の是非は？他方、5/20に「ハマス壊滅は達成不可能」と断じ、「即座に政権交代が必要だ」と訴えたのが元首相のオルメルト氏。彼はネタニヤフ政権を「非現実的で国際社会から受け入れられていない」と批判したが、さて今後の展開は？
- 3) 宿敵同士のイスラエルとパレスチナの和平など到底不可能。誰もがそう考える中、バイデン大統領はイスラエルとサウジアラビアの国交正常化を通じて、イスラエルにパレスチナ国家の樹立を認めさせる構想を模索しているが、さてその実現可能性は？パレスチナ自治区ガザ最南部ラファへの避難民は、大量の戦車を中心としたイスラエルの軍事攻勢と空爆が強まる中、文字通り“逃げる場なし”状態だ。一刻も早い現実的協議と対応が不可欠だ。

＜特集－弁護士50周年！＞

1974年4月の弁護士の登録から50年があつという間に過ぎ去った。織田信長の時代には“人間50年”だったが、今や“人生90年”が当たり前。5/25(土)にはクラス会と全体懇親会で50周年を祝ったうえ、さらに5年後の“55周年”の約束も！



1組からは16名が、全体懇親会には135名が参加。

第3 陪審員が全員一致で有罪判決!

1)「夏の暑い日、陪審員の指名を受けた12名の男が一室に集まる。事件は少年の第一級殺人罪すなわち謀殺。裁判長は陪審員の義務を説示し、全員一致の評決を求める。6日間も審理に立ち会って来た陪審員。早く結論を出してナイター観戦をしたい陪審員もいる。すぐに投票し結論を出そうとなった。もちろん全員一致で有罪の結論を確信して、ところが、11名の陪審員が「有罪」と挙手する中、ヘンリー・フォンダ扮する陪審員8号は無罪に手を挙げた。全員一斉に白い目で彼を見る。ここから長い長い陪審員の評議ドラマが始まった。彼の理性的で粘り強い説得の中、陪審員の議論は白熱する。これが「法廷モノ」の名作中の名作、『二人の怒れる男』(57年)の導入部だ。誰もが有罪と信じこんでいた評決は次第に「合理的疑い」が濃くなり、投票のたびに無罪票が増えていく。そして最後まで抵抗し続けた陪審員3号も、結局は自分の良心に従い、無罪と評決した。

2) ニューヨーク州マンハッタン地方裁判所の陪審員は5/30、トランプ前大統領の不倫口止め料裁判について「有罪判決」を下した。これは、2016年の大統領選前、弁護士と共謀して不倫相手の女性に口止め料を支払い、その事実を隠蔽する目的で一族企業の業務記録を改竄したとされる事件。検察は34の罪状で有罪判決を求めていた。トランプ氏は一方では一貫してこの裁判を「11月の大統領選挙で自らの再選を妨げる政治的迫害だ」と主張しながら、他方では、「マザー・テレサでも無罪にならないだろう」と悲観していたが、評議開始からわずか2日後に12名の陪審員の全員一致で有罪判決が下されたからすごい! 映画とは大違いのスピード判決だ。

3) 米国の陪審制度では、量刑は有罪判決を受けて裁判官が言い渡すことになっており、7/11に量刑が下されることも決定したから、こりゃ注目! 米国では有罪になっても、刑務所の中からでも大統領選への出馬が可能だが、さて、バイデンVSトランプの超高齢者対決となる11月の大統領選挙への影響は? もともと民主党の地盤であるニューヨーク地方裁判所での陪審判決とはいえ、たった2日間の評議で、12人全員一致の有罪判決とは! 控訴審を含めて、今後の裁判闘争に注目!

第4 台湾情勢をどう考える

1) 2024年の日本は元旦の能登半島地震から始まったが、台湾の新年は1/13の総統選挙と立法院選挙から始まった。日本人が肝に銘じるべきは、①70%超という高い投票率、②蔡英文の後継者たる頼清徳の当選と台湾の直接選挙が始まってはじめての3期目の民進党政権の誕生、③立法院選挙における与党の過半数割れた。日本でも米国でも韓国でも、民主主義国でたまに起きる「ねじれ現象」下での政権運営は大変だ。

2) 頼氏は5/20の就任式で蔡英文路線の承継と中台関係の「現状維持」を強調したが、「台湾と中国は互いに隷属していない」等の発言を問題視した中国は、「台湾海峡の平和と安定を壊す危険なシグナルであり、『台湾独立工作者』の本性を暴露した」等と猛反発した。そして、5/23から2日間にわたって台湾周辺で大規模な軍事演習を実施。その期間は2022年の米国ロペン下院議長訪台後の7日より短く、弾道ミサイルも発射しなかったが、地域は金門島や馬祖島周辺にまで広がったうえ、台湾海峡における「中間線越え」の軍事演習は常態化している。日本の宮古島、石垣島、与那国島は台湾のすぐ東側に位置しているから、その影響や如何に?

3) さらに立法院では、最大野党・国民党ともう一つの野党・台湾民衆党が、立法院の権限を大幅に強化する法案の強行採決を図ったため、5月末には大規模なデモが発生。こんな「内憂外患」常態化の台湾の今後に注目!

第5 韓国情勢をどう考える

1) 韓国では、4/11に4年に一度の総選挙(一院制の国会議員選挙)が実施され、与党「国民の力」108(旧114)VS最大野党「共に民主党」175(旧156)VSその他17となった。

2) 2022/3/9の大統領選挙で李在明氏に勝利した「国民の力」を率いる尹錫悦氏は従来の政策を180度転換し「親日・親米」路線を推進していたが、格差の拡大や医療改革騒動の中で若者の批判を招いたため、総選挙の敗北を受けて議会の妥協を図る政権運営を余儀なくされた。ところが議会で提案法令への拒否権の行使10本と歴代最高を更新した。

3) 5/27に北朝鮮が発射した「ロケット」は空中で爆発し、衛星打ち上げに失敗したが、5/28には汚物やゴミの入った大量の大型風船を韓国側に散布。さらに5/30には韓国と日本を威嚇するべく、10発の短距離弾道ミサイルを内陸部から北東方面に発射する等、その傍若無人ぶりはエスカレートしている。

4) そんな状況下、5/27にソウルで日中韓首脳会談(サミット)を4年半ぶりに開き、「北朝鮮の非核化と朝鮮半島の安定が日中韓3カ国の共通利益である」と確認したのは、朗報。同時にFTA交渉の加速も合意した。しかし、その現実的な成果は・・・?

第6 インドの総選挙にも注目!

1) 必ず日曜日に行われる日本の総選挙は即日開票が原則である上、情報化社会の今は、「出口調査」の結果、投票締め切りと同時に「当選」or「当選確実」が報じられることも多い。しかし、「世界最大の選挙」と呼ばれるインドの総選挙(下院、543議席)は、4/19から6/1まで何と40日以上も続いた。

2) 2014年の総選挙で政権を奪還したインド人民党は、対内的には「メイク・イン・インド」政策を打ち出し、規制緩和と外資誘致によって急速な経済成長を進め、対外的には「グローバルサウスの盟主」「次の超大国」としての地歩を固めてきた。昨年9月に主催したG20サミット(首脳会議)では、西欧と中国・ロシアのバランスを見事に操っていた。

3) 他方、貧しい「紅茶売り」から叩き上げの政治家として「カリスマ的指導者」に成長したモディ首相は敬虔なヒンズー教徒。そのため、総選挙ではイスラム教徒を「侵略者」と呼んだが、その功罪は?

4) 近年の経済成長は見事だが、他方で格差の拡大と貧困、失業率は深刻。そのため、「地滑りの勝利」との事前予想は大きく裏切られ、6/4の投票の結果は、与党連合が過半数を確保したものの、議席数を大幅に減少させた。

5) 2期10年間の実績は大だが、3期目5年間の政権運営は多難だろう。X(旧ツイッター)のフォロワー数は、トランプやバイデンを上回る約1億人! 今後は、演説も巧みな、この73歳の男、モディ氏の動静に注目!

第7 政治とカネは? 法改正の行方は?

1) 「国民の信頼回復のために、火の玉となって、自民党の先頭に戻す」。臨時国会開会日の昨年12/13、岸田首相はそう絶叫した。自民5派閥が政治資金パーティーの収入について政治資金収支報告書に過少記載したとして告発された問題は、安倍派(清和政策研究会)による裏金疑惑として連日報道され、東京地検は12/19、安倍派と二階派(志帥会)の事務所への強制捜査に入り、松野博一前官房長官ら安倍派幹部を任意で事情聴取した。

2) 昨年3月のウクライナへの電撃訪問、5月のG7広島サミットで「外交の岸田」を演出し、5月の支持率を急回復させた首相が、衆院解散・総選挙の可能性について「情勢をよく見極めたい」と思わせぶりに語ったのが命取り! 5人の女性閣僚を起用した9/13の内閣改造後も支持率は向上がなかった上、1/26からの通常国会では裏金問題攻勢の中、政権は「機能不全」状態に陥った。派閥批判の大合唱の中で各派閥が封印されているため岸田内閣は

延命しているが、衆議院解散ができないまま、9月の総裁任期満了になる可能性が大!?

3) 5~6月の政治資金規正法改正論議は、与党案も野党案も修正案(妥協案)もすべて、見るに堪えない何とも無様なもの。6/23の会期末までには必ず成立するだろうが、その議論のバカバカしさにはうんざり。「政治とカネ」問題のあるべき姿は誰がどう考えても、単純かつ明白なはずだ。

第8 都知事選挙は? 女の激突に注目!

1) そんな状況下、機を見るに敏な(?)元キャスター蓮舫氏が、突如、7/7投票日の東京都知事選挙への立候補を表明した。

2) 日本維新の会が独自候補を立てるか否かが一つの焦点だが、今の維新にそんな力量があるの? 立憲民主、共産党、れいわ新選組の基礎票を合計すれば、みんなの党や自公が小池百合子氏を応援しても、今なら勝てる! 蓮舫氏にはそんな思惑がミエミエだが、さて? 広島県安芸高田市市長・石丸伸二氏を含めた約10名の候補者が乱立しても、メキシコの大統領選挙でソチル・ガルベス氏とクラウディア・シェインバウム氏の2人の女性候補が激突したように、今回は小池百合子VS蓮舫という2人の女性の強烈なキャラ激突が焦点だ。

3) 都知事選には魔物が棲(す)んでいる。美濃部亮吉、青島幸男、石原慎太郎らが登場した過去の都知事選では、何よりも知名度が大事。インドの有権者数には遠く及ばないが、東京都に住む多くの移り気な無党派層が勝敗のカギを握っている。小池氏は8年前には圧倒的知名度で増田寛也元総務相を圧倒したが、今回は同じお仕事の後輩からの挑戦を! 両者の「スキヤンダル合戦」も面白いが、それ以上にまともな政策論争を見せてもらいたい。

第9 大リーグ・野球・将棋・囲碁など

1) 今年も大リーグが熱い。大谷翔平の連日の活躍は特筆モノだが、野茂英雄、黒田博樹、それに続くダルビッシュ有の日米通算200勝もすごい。37歳のダルは今なお進化を続けているから次の目標は250勝だ。大谷以外の日本人大リーガーの活躍にも注目! その筆頭が今昇昇投手の大活躍。5/29には7失点し初黒星を喫したが、5勝1敗の成績も1点台の防御率もすごい。逆に大リーグですべて苦んできたメッツの藤浪は、3月下旬に3Aの試合で制球難の大乱調を見せたにもかかわらず、「メジャー昇格→即負傷者リスト入り」した。5/24付産経新聞夕刊は、それを「事実上の戦力外 藤浪の選択は」と詳しく解説している。古巣の阪神タイガースが救済? それとも現役引退? そんな厳しい選択が目前だ。

2) 阪神T.は交流戦に入って急速! 佐藤に続いて、6/4には大山もゲラも2軍行きとは!! オリックスの浮上も難しそうだから、関西万博を含めて今年の「関西ダービー」は期待薄!?

3) 将棋界では、藤井聡太八冠が名人戦を4勝1敗で初防衛! 新聞の棋譜で見るその死闘は、豊島将之九段のAI全盛時代に逆らうかのような力戦模様の戦いが興味深かった。さらにカド番で迎えた5/31の叡王戦第4局では、伊藤匠七段に勝利し、6/20の最終局にタイトル防衛の望みを託した。藤井八冠の前人未踏の偉業はどこまで続くのだろうか?

4) 囲碁界では、4月末に井山裕太が芝野虎丸から十段位を奪取。5/30には一力遼が本因坊戦で3連勝して、棋聖と天元の三冠をキープした。他方、十段位を失った芝野は6/21から棋聖戦で井山に挑戦するうえ、その後には名人戦の防衛戦が待っている。囲碁界は井山三冠、一力三冠、芝野名人の「三強激突」から目を離せない。藤沢里菜、謝依愛、上野愛咲美ら男性棋士にヒケをとらない強力な女性棋士の戦いも面白いが、しばらくはこの「三強」の覇権争いに注目!

2024(令和6)年盛夏(2024年6月6日記)

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和 章平

【特集】50周年記念懇親会を東京で開催！（5/25）

1) 1972年から74年までの2年間、湯島にあった司法研修所で共に学び、その後それぞれ裁判官、検察官、弁護士の道に分かれていった、第26期司法修習生（約500名）の50周年記念懇親会が東京の如水会館で開催された。参加者は総数135名。私が所属した1組からは16名だ（1頁・写真）。

2) 全体懇親会に先立つ1組のクラス別懇親会には13名が参加し、近況を語り合った。8名の教官は全員逝去、クラスメイトたちも51人中10名が逝去しているが、これだけ盛大に50周年を迎えることができたことに感謝。一人一人の近況報告の中でも、私たち（の世代）は昭和の後半から平成、令和へと続く平和の中で、前向きに成長と安定期に入った時代を走り抜けてきたことを十分実感することができた。

3) 全体会ではクラスごとの写真撮影の後、個別のフリー懇親となり、あちこちで話の輪が弾んだ。1組は、元最高裁判所長官・寺田逸郎、元最高裁判所判事・山浦善樹を出したすごいクラスだが、酒を飲みながら自由に語り合えば、同じ教室で机を並べて講義を聴き、議論を交わしあった風景が昨日のように思い出されてくる。

4) 先例によれば、これまでは各期とも50周年で公式行事は打ち止めだが、1組は次回55周年も東京でクラス会を開催することを決定した。参加者の健康状態や活動状況を見れば、16名全員がまだまだ元気。口が達者なら、身体も十分達者だ。したがって、5年後も、本日の参加者を含めて15名～20名が参加するクラス会を期待したい。同期の皆さん、1組の皆さん、ありがとう。そしてお元気で！

【コラム1】

弁護士生活50年を振り返って

1) 私が大阪大学法学部に入学したのは1967（昭和42）年4月。1949年1/26生まれの私は、いわゆる団塊の世代だから、小学校の1クラスは約50名という詰め込みだった。「早メシ早〇〇は当たり前。何事も人より早く」と教えられ、ありとあらゆる競争の中で自分を強くしていく方法を身に付けてきた。しかし、そのことと、周りを見る目、他人を思いやる心とは矛盾しなかった。私はそう確信している。

2) 愛光学園という、灘、ラサールと同じような中高一貫の男子進学校が松山市内の自宅から自転車で通えるところに誕生したため、両親は「授業料は何とかする」と一大決心をして、兄を8期生、私を9期生として同校に入学させた。以降「いい大学を目指す受験教育」一色になった私は、映画館通い、将棋・囲碁、卓球、音楽、柔道と、それに反発しながらも、はみ出すこともないまま順応し、阪大への入学を果たした。中高6年間での「いい大学への入学」は親から課せられた私の義務だったが、4年間の授業料と毎月1.5万円の生活費の支給を約束された大学時代の私は、暗黒の中高時代から一転、「24時間すべて自由」という夢の生活に入った。そこで俄然目覚めたのが学生運動だ。それまで政治的な主張など皆無だった私だが、ベトナム戦争は？ 沖縄返還は？ 佐藤政治は？ 大学改革は？ 等々の議論になると、なるほどこれは面白い。それに対して法学部の授業はまるで空虚。その結果、丸々3年間は学生運動にのみり込むことに。単位の取得はチョロイものだったが、いざ卒業、就職を考えると・・・？

3) そこで目にしたのが、司法試験を目指している3人の同級生だ。『いちご白書』じゃあるまいし、今さら就職が決まって髪を切り、企業に尽くす人生なんて真っ平！ 司法試験に合格さえすれば弁護士になれ、人権擁護、社会正義のための仕事ができ、収入も多いらしい。こりゃ、俺にはもってこいだ。そう確信した私はそこから一念発起し

て1970年1/26の誕生日に我妻栄『債権総論』を購入し、下宿に籠り、外部との接触を一切断ち切って勉強に専念した。民事訴訟法のゼミへの参加だけを例外とするそんな“完全独学”の1年半の勉強で、1971年10月、合格発表を聞くことに。

4) 1972年4月から東京の司法研修所に通うことになった私には公務員並みの給与が支給されたから、生活は安定。勉強しながら給与をもらうという最高に幸せな2年間を過ごした後、1974年4月大阪の堂島法律事務所に入所し、一般業務はもとより公害問題をライフワークにした私の弁護士生活がスタート。それから1979年7月に独立するまでの5年余は、土日祝日なし、G.W.なし、自宅での食事なしという“仕事づけ”の生活が続いたが、その充実度、楽しさは“黄金の青春時代”だった。

5) 転機になったのは、1984年5月の大阪駅前再開発問題研究会への参加。これによって私のライフワークが公害問題から都市問題に移行し、『岐路に立つ都市再開発』（87年）等の専門書の出版や、阿倍野再開発訴訟をはじめとする全国各地でのまちづくり訴訟や相談が激増した。本業では、土地バブルが1989年に頂点に達する中で、一般事件、損害保険会社の交通事故事件、そして破産管財事件が激増し、依頼者との交流も深化し、北新地でのカラオケ合戦は連日のイベントになった。

6) 次の転機は、2001年に完成した自社ビルへの移転と同時に開設したホームページで映画評論を開始したこと。年間200本の映画を鑑賞し、次々と『シネマ本』を出版。その数は2024年で55冊に達した。また、事務所の移転後は中国人留学生や毛丹青老師との交流が進み、日中友好活動の分野でもオレ流の日中友好活動が拡大した。映画関係では、次々と若き才能と接触する中で出資スタイルでの交流が増えた。

7) 以上を総括すれば、私の弁護士生活は①25歳まで②25歳から50歳まで、③50歳から75歳までの3期に大別できる。その区分ごとにそれぞれ多くの楽しい時間を過ごすことができたことに感謝！ 「これから25年」とまでの高望みはしないが、残された“所与の人生”もしっかり“オレ流”で楽しみながら生きていきたい。

【コラム2】75歳に思う

—『やっぱりジュリー』もいいが『やっぱりオレ流で！』—

1) 谷村新司（享年74歳）や八代亜紀（享年73歳）らが次々と逝去した。武田鉄矢（75歳）、堀内孝雄（74歳）、五木ひろし（76歳）、吉幾三（71歳）らはもとより、少し先輩の橋幸夫（81歳）、加山雄三（87歳）、北島三郎（87歳）らはまだまだ元気だが、「後期高齢者」に突入する75歳は一つの節目だ。

2) そんな中、5/14付朝日新聞は『やっぱりジュリー—（沢田研二、愛称ジュリー。75歳。いまもライブツアー中。チケットは軒並みソールドアウト。熱狂の中を駆け抜け、時々に変わりながら、半世紀を超えて歌い続ける彼が映し出すのは。）と題して、①スージー鈴木（映画評論家）「75歳 貴くロック村度なく」、②中江裕司（映画監督）「加齢も変化も さらけ出す」、③島崎今日子（ノンフィクションライター）「価値観先取り 抵抗の文化」の“耕論”を掲載した。

3) タイガース時代は司法試験の勉強と重なったため全く知らないが、絶頂期の『勝手にしやがれ』（77年）を歌っていた頃の彼のカッコ良さは抜群。そして、75歳を迎えた今は、深い演技で存在感を！ そんな彼を「やっぱりジュリー」と祭り上げるのは簡単だが、それはいかにも朝日新聞的？ 同じ団塊世代の中で、違う道、違う分野を走り続けてきた私としては、「やっぱりジュリー」ではなく、プロ野球界で「オレ流」を貫いた落合博満と同じように、「やっぱりオレ流」の生き方を目指したいし、それを全うしたい。

4) 「満開の桜や 色づく山の紅葉をこの先いったい何度 見ることになるだろう」。これは、竹内まりやが歌って大ヒットした35枚目のシングル『人生の扉』の2番の歌詞だ。私は2007年に同曲を聴いた時からその名曲ぶりに惚れ込み、たちまちカラオケの「持ち歌」とした上、100名規模の某パーティーでは、プロのバンドをバックに、堂々とマイクを持って歌うという“離れ技”もやってのけた。2015年9月に大腸ガンの、2016年11月に胃ガンの手術をした直後はモロにその心境だったが、75歳を迎えた今は、心静かにこの歌詞と向き合い、かみしめながら生きている。

イベント1 <横浜観光> (5/26)



【写真①】 5/26 (日)
ダイヤモンドホテルに集結



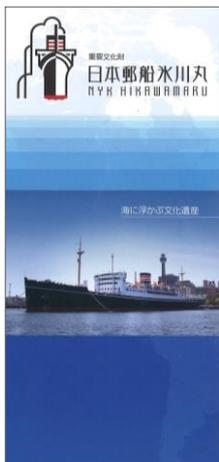
【写真③】 5/26 (日)
ホテルニューグランド



【写真④】 5/26 (日)
横浜人形の家



【写真②】 5/26 (日)
石碑「継往開来」
(過去を継承し未来を開く)



【写真⑤】 5/26 (日) 日本郵船水川丸



【写真⑥】 5/26 (日)
「赤い靴はいた女の子」の像



【写真⑦】 5/26 (日)
海上保安資料館横浜館

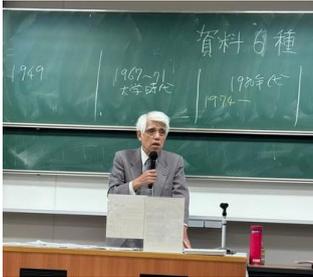
近況報告



【写真⑧】1/26(金) 75歳の誕生日



【写真⑨】2/21(水) 王少鋒先生と会食



【写真⑩】12/7(木)
阪大ロイヤリング



【写真⑪】1/9(火)
近畿交通共済協同組合の
新春年賀交換会



【写真⑫】3/16(土)
大阪府日本中国友好協会・文化茶話会

イベント3 <毛丹青関連>



【写真⑬】12/11(月)
「道産っ子」で会食



【写真⑭】4/12(金)
「鉄鍋餃子 3・6・5 酒場」で会食



【写真⑮】4/13(土)
「KOBE Coffee hostel」
([『余波未了』)を見学



【写真⑯】4/24(水)〜25(木)

高野山ツアー



事務所と坂和章平弁護士近況報告

第1 弁護士兼映画評論家活動の現状

1) 近時、東京をはじめとする各地の再開発や区画整理の事件の相談が増えている。さすがに訴訟になるものは少ないが、まちづくりや都市計画をライフワークとして選択したことの正しさを改めて確認している。そんな中、7月からは愛知県額田郡幸田町からの依頼で顧問を務めることになった。町内では数件の土地区画整理事業が計画されているが、その前途は険しい。案件ごとに相談を聞き、一步一步しっかりした法的対応をしていきたい。

2) 憲法改正議論は進まないが、債権法改正をはじめ、さまざまな基本法の改正が進んできた。私たち団塊世代の弁護士は、IT化についていけないと同様、これらの法改正にもついていけないから、下手に法律相談を聞いて回答すると、嘘を教える恐れがある。そのため私は、生々しい法律相談は一人では聞かず、宏展弁護士の協力を得ているが、それでも私への法律相談は絶えない。“生涯現役”を目指す私としては、これからは誠実にそれに対応していきたい。

3) パソコン打ちの事務員は安定した。そう思っていたのに、1年間勤めた事務員が突如4月末で退職すると言ってきたから、大混乱！一時は映画評論家活動を縮小もしくは辞めることも考えたが、「捨てる神あれば、拾う神あり」のことわざ通り、新たなパソコン打ちの人材として、岸田万理子さんが見つかった。今は週2、3回のペースで出勤し、映画評論、ホームページ、weibo等々のパソコン打ちを全般的に任せている。さらに宮本憲一先生の出版記念パーティーへ出席した際、初代事務局長を務めた宮本三恵子さんが週1回来てくれることになったから、これによって十分な戦力が整うことに。

4) パソコン打ちの事務員が欠員気味になると、必然的に映画鑑賞とその評論書きが減り、さらにホームページやweiboへのアップ作業も減るから、その分、私の自由時間が増える。すると、それに反比例して帝国ホテルのフィットネスで泳ぐ時間や中国語を一人で勉強する時間が増えてくることになる。昨年は一時期そういう傾向があったが、パソコン打ち事務員が安定・充実してくると、やはり映画関連の時間が増えてくることに。そのため、今年の前半は水泳の回数が「ほぼ毎日1kmを」から「週2、3回1kmを」に減ったが、よく考えてみれば、75歳の私にはそれで十分。仕事と映画そしてサウナ通いと水泳等の時間をバランスよく組み合わせながら、75歳後半の弁護士活動を展開していきたい。

第2 75歳の誕生日(1/26)(5頁・写真⑧)

1) 遂に75歳の誕生日！「後期高齢者」というイヤな言葉がつかまとうが、それにこだわらず、これまで通り「24時間仕事、24時間遊び」の気持ちで、日々を過ごしていきたい。

2) 今年の事務員からのプレゼントは、日常的に使う「見えづらい目のかすみ 直接効く」サンテメディカルの目薬に。バスデーケーキを食べながら、これまでの25年、50年、75年の節目を中心に、弁護士論、人生論を3人の事務員に語り聞かせる、良き誕生日になった。伊藤日実子さんからお祝いの梅酒を、岡三証券の友成さんからもお祝いのお花を。

3) 王少鋒先生と会食(5頁・写真⑨)

2/21(水)6時から、大阪電気通信大学の王少鋒先生が、私の75歳の誕生日祝いの会食をセットしてくれた。グランフロント大阪南館7Fにある、和食「たちばな」で、今年9月に沖縄で開催される国際行動学会第19回年次大会で、坂和が中国電影論の論文を発表する準備についての楽しい話題を中心にじっくり話し合った。今後の展開を乞うご期待！

第3 講義・講演

1) 阪大ロイヤリングで「まちづくりの法と政策」を講義(12/7)(5頁・写真⑩)

12/7(木)、大阪大学法学部のロイヤリングで、毎年恒例の「まちづくりの法と政策」を講義。例によって、詳細なレジメと自己紹介、法令資料、トピックスに分けた膨大な資料に基づき、90分間にわたって「坂和節」を熱く語り、約50名

の学生が熱心に聴講してくれた。講義終了後は、車で送迎してくれた崔棟クンと、11/2(木)の事務所見学に来てくれた、司法試験を目指す20歳の女子学生、張亦鳴さんと3人で写真撮影。約2週間後には学生からの感想文が送付されてくるので、それを読むのが楽しみだ。

2) NPO法人大阪府日本中国友好協会・文化茶話会で講演(3/16)(5頁・写真⑪)

「ここ10年の坂和的中国電影論と坂和の日中交流の楽しみ方」と題する講演を実施。楽しく中国映画を語り合った。

第4 執筆活動(1)新日本法規出版の加除本

1) 『問答式 土地区画整理の法律実務』は、7月9日に名古屋での編集会議にリモートで参加した。予定では8月に原稿を執筆し、10月～11月頃に追録58号～が発行される。

2) 『わかりやすい都市計画法の手引』は、現在の情勢に合わせた加筆や修正をするとともに、重要な判例について、各条に参考判例やケーススタディとして追加した追録55号～58号を1月、2月に発行した。来年度の追録発行に向けては、現在、情報収集中だ。

3) 『Q&A 災害をめぐる法律と税務』は、いつも新聞などで情報収集しており、新設問のネタは豊富にあるため、たくさんの方の新設問の原稿を執筆中。追録75号以降は、年内に発行される予定だ。

第5 執筆活動(2)『シネマ55』を出版

西区九条の「シネヌーヴォ」は十三の「第七藝術劇場」と並ぶ大阪の名物“単館”。「中国映画の全貌2004」では31本を見たが、今年の「橋本忍映画祭2024」では、株主優待券を正月休みに有効活用して、『八甲田山』等を鑑賞し、同館前で『シネマ55』の表紙写真の撮影を。同館の経営と運営は大変だが、支配人らの工夫と努力はすごい。シネコン全盛時代にこだわりの映画館は不可欠だ。『シネマ55』の充実度は従来通りだから、ぜひAmazonでご購入の上、読んでもらいたい。

第6 近畿交通共済協同組合の新春年賀交歓会(1/9(火)、11時～13時)(5頁・写真⑫)

年頭恒例の同会に出席。久しぶりに懐かしい面々と、短いながらも楽しい会話をすることができた。また、すぐ近くに住んでいながら、ゆっくり話をするのも少ない宏展弁護士とも、少し事件の打ち合わせをした後、舞台をバックに記念撮影。考えてみれば、2ショットの写真は、すぐ近くに住んでいる父子でも、ここ数十年で初めてだ。今年も1年間、お互い元気で弁護士としての活動を続けたいものだ。

第7 宮本憲一先生の「出版記念祝賀会&背広ゼミ総会」に出席(4/27)(8頁・写真⑬)

1) 私が1974年4月の弁護士登録後すぐに加入した大阪国際空港公害訴訟やその後の西淀川大気汚染公害訴訟でお世話になった環境経済学の第一人者である宮本憲一先生が、何と93歳にして今般「われら自身の希望の未来—戦争・公害・自治を語る—」を出版。同書は私の弁護士50年の活動歴と被る箇所も多いので、懐かしさがいっぱい。すぐにお礼状を書き、私の心境も報告した。その縁で、宮本茂樹クンや三恵子夫人との接点が増え、昔の「坂和会」が「茂樹会」として復活した。

2) 会場となる京都都ホテルに前日から宿泊してパーティーに参加。出版不況の中、本書の内容の素晴らしさは群を抜いている。共通の活動分野であった公害、環境問題はもとより、戦争や自治に関する宮本先生の論述は興味深い。とりわけ、第三章「なぜ今カール・マルクスなのか」を読みながら、学生時代の勉強の延長と現在の認識を自分に問うていくと、めっちゃ面白かった。「自分史の中から主体的に」という、今回の総会のキーワードも実に素晴らしいものだ。93歳にして今なおこれだけの活動を続けている宮本憲一先生の業績を見れば、75歳の私ももっともっと頑張らなければ！そんな元気をもらったパーティーに感謝。

イベント1 <横浜観光> (5/26)

1) ダイヤモンドホテルに集結—50周年記念懇親会に合わせて横浜観光へ! (4頁・写真①)

円安のためか、久しぶりに乗った新幹線は満席、東京駅でのタクシーも順番待ちだったから、本日も大混雑だろうが、15年ぶりの横浜観光は楽しんだ。

2) 石碑「繼往開来」(4頁・写真②)

横浜中華街東門(朝陽門)にある石碑「繼往開来」(過去を継承し未来を開く)は劉旭光氏が2005年にデザインしたものだ。彼は、私が2007年10月に北京電影学院で実施した「坂和的中国電影論」と題した集中講義を聴講してくれたことで知り合い、その後、早稲田大学に留学してきたことで急速に親しくなった、当時、院生だった劉茜懿さんの実の父親で、北京電影学院の美術科の教授だ。「繼往開来」は、未来を切り開く「石斧」をモチーフにした記念碑で、中華街が、善隣友好・温故知新を胸に歩いていくことを願ったもの。それを目の前で確認し、見学できたことに感謝!

3) 以下、①ホテルニューグランド、②横浜人形の家、③日本郵船水川丸、④「赤い靴はいた女の子」の像、⑤海上保安資料館横浜館、を見学。

水川丸は映画『タイタニック』(97年)との比較(?)で、横浜人形の家は意外な充実ぶりで興味深かった。また、目の当たりにした北朝鮮工作船の実態には大きな衝撃を受けた。2日後に台風の接近と大雨が予想される中、快晴の下で、数十年ぶりのホテルニューグランド訪問を含め、充実したこんな観光ができたことに感謝! その詳細はホームページで! (4頁・写真③~⑦)

イベント2 <「茂樹会」関連>

1) 宮本茂樹・三恵子ご夫妻と約40年ぶりに会食したことで、かつての「坂和会」が「茂樹会」として復活! 宮本憲一先生の長男である茂樹くんは近々、近畿日本ツーリスト顧問の地位を退職するが、京都を拠点とした彼の観光関連の人脈は広い。今の私は基本的に暇。彼も引退後はさまざまな自由行動が可能だから、今後は彼の企画と案内で色々な京都の名所をめくりたい。

2) 東寺と妙心寺大雄院を見学 (4/26) (8頁・写真⑩⑪)

その手始めに、彼の案内で①東寺の五重塔や講堂、②臨濟宗大本山妙心寺大雄院を見学。一般公開していない見どころも見学できた。

3) 聴講+観光 (5/22) (8頁・写真⑫~⑭)

①摂南大学で宮本茂樹先生の「今、観光産業が直面する課題と2025年以降の近未来予想」(90分)を聴講

学問的体系はともかく、社会問題としての観光の在り方や、個人的興味としての旅行の楽しみ方には、私自身が

興味を持っていただけに、彼の実践的な分析に富んだ講義は面白かった。北海道での「長期滞在プラン」等の商品が彼のアイデアだったことを知ってびっくり。コロナ禍で観光業は大打撃を受けたが、それによって逆に①紙媒体からウェブへの切り替え、②団体旅行から個人旅行への移行が“断行”できた等のプラス面も多い。“ベスト(PEST)分析”なるものもしっかり勉強。タイトル通りのテーマが今の日本を待ち受けているわけだが、聴講した学生たちの反応はいかに?

②八幡市立松花堂庭園・美術館を見学
八幡市にこんな広大な庭園と美術館があることを知ってビックリ! 松花堂弁当は知っていても、寛永の文化人「松花堂昭乗」やゆかりの史跡「松花堂庭園」を知っている人は? こんな広い敷地を持った庭園や美術館を広く世間に知らしめて、観光客を集めれば収益力のアップは十分可能だから、いろいろなビジネスモデルの案が次々と湧いてくる。今後はその具体化を目指したい。

③和風居酒屋「ふじわら」で会食

京阪中書島駅すぐ近くに、坂本龍馬が定宿にしていた寺田屋がある。住宅地の中に、突如朱色に浮かび上がる一軒家が「ふじわら」。ここはかつて「遊郭」だったというから、ビックリ! 店の内外の作りは完全にそれを活かしたものになっている。都市計画的には、住居、店舗、遊郭の混在は「如何なもの?」だが、何ともいえない趣きはすごい。まさに隠れた名店だ。異次元の感覚のお店を仕切るマスターが超個人的なら、料理もオリジナルだ。

同行したジェームズは茂樹くんの親しいビジネスパートナーとしての役割が高まっている米国系日本人だが、元商社マンだったという異色の経歴と、米国系日本人ながら日本の歴史に関する博識ぶりは素晴らしい。彼は英語通訳ガイドの資格を持っており、英語圏をターゲットにした観光需要は既に吸収しているのだから、新たに伊藤日実子が中国語通訳ガイドの資格を取って、両者がコラボすれば、業務はさらに拡大するだろう。茂樹くんとジェームズが飲む酒の量が増えるとともに話題も正比例して広がって、楽しく有意義な時間を過ごすことができた。快晴の空と新たな人脈の広がりに感謝!

4) 鶴見和子文庫の見学と鳥せい本店で会食 (5/29) (8頁・写真⑮⑯)

①鶴見和子(1918~2006)は『思想の科学』を創刊した鶴見俊輔の姉。70年代の水俣調査に基づく「内発的發展論」で有名だ。杉本星子・西川祐子編『鶴見和子と水俣—共生(ともいき)の思想としての内発的發展論』(2024年)の出版を契機に、茂樹先生らの案内で、京都文教大学図書館にある「鶴見和子文庫」を見学。同行するのは金沢大学に「宮本文庫」を持つ宮本憲一先生だ。

膨大な量の蔵書や資料の整理は大変だが、なるほど、こんな形で!

②見学後は中書島駅、そして5/22に会食した「ふじわら」のすぐ近くにある京都伏見の「鳥せい本店」で会食。ここは創業340年の老舗蔵元の直営店で、蔵出し原酒と絶品鳥料理が売りだ。おいしい鳥料理に舌鼓を打ちながら、多くの話題で盛り上がった。次回の「茂樹会」の企画に期待!

イベント3 <毛丹青関連>

1) 「道産っ子」で (5頁・写真⑳)

12/11(月)東京から孫農俊クンが来阪した機会に会食。毛先生の“教え子たちが今や社会の第一線で立派な活躍を続けていることに感激。

2) 毛丹青ご夫妻、李淵博と新妻、王師師らと会食 (4/12) (5頁・写真㉑)

鉄鍋餃子 3・6・5酒場 梅田HEP通り店で会食。話題の中心は“高野山プロジェクト”だが、久しぶりの会食だったため、他方面に盛り上がった。

3) 「KOBE Coffee hostel」(『余波未了』)を見学 (5頁・写真㉒)

4/13(土)、王森(ワン・セン)さんが、三宮に近い上沢駅で、3階建てのビルを購入し、コーヒー店兼民宿の国内ホテル・「KOBE Coffee hostel」(『余波未了』)を始めたので、毛さんらとその見学を。名前の由来は、彼の著書『余波未了』だが、同書は彼が尊敬する中国の作家、王小波を偲んで書いたものだから、その巻末には「王小波语录精选」もある。上沢駅周辺が、三宮近郊の住宅街としてマンションが次々と建てられている地域であることがわかるとともに、名前の由来を聞けば、彼の文学的素養の広さと国際的なネットワークの広がりがよく理解できた。民宿の予約はすべてネットで可能だから、日本語が喋れなくても英語でOKだ。日本の観光のあり方やインバウンドのあり方についてさまざまな課題が見えてきている昨今、いい勉強になった。

4) 高野山ツアー (5頁・写真㉓)

毛丹青老師との交流はすでに15年が経過した。私は弁護士50周年だが、北京大学を卒業した、私より一回り年下の彼は、北京大学40周年の同期会を日本の高野山ツアーで実現したからすごい。4/24~25の高野山ツアーには、同期生12名とその家族約40名、さらに現在の教え子である留学生と日本人学生十数名が参加した。そんな高野山ツアーに私もたどたどしい中国語と中国語を学ぶ日本人学生+日本語を学ぶ中国人留学生を頼りに、私にとっては二度目の高野山ツアーを堪能した。

毛さん世代の中国人の日本への関心は高いが、それはなぜ? 高野山の旅を通じた日本人と中国人との言葉の壁を越えた“心の交流”とは一体ナニ? それをしっかりと考え確認できるツアーになったことに感謝!

イベント2 <「茂樹会」関連>



【写真⑦】4/26（金）
東寺の五重塔を見学



【写真⑩】4/26（金）
妙心寺大雄院を見学



【写真⑱】4/27（土）
宮本憲一先生の
「出版記念祝賀会&背広ゼミ総会」



【写真⑳】5/22（水）
宮本茂樹先生の摂南大学での講義「今、観光産業
が直面する課題と2025年以降の近未来予想」



【写真㉑】5/22（水）
八幡市立松花堂庭園・美術館を見学

【写真㉒】5/22（水）
和風居酒屋「ふじわら」で会食



【写真㉓】5/29（水）
京都文教大学の
「鶴見和子文庫」を見学



【写真㉔】5/29（水）
京都伏見の「鳥せい本店」で会食

中国駐大阪総領事館主催のイベントなど



【写真⑮】2/6 (火)
薛劍総領事のご挨拶



【写真⑯】2/6 (火)
パネルディスカッション



【写真⑰】2/6 (火)
パンダちゃんと
記念撮影



【写真⑱】2/6 (火)
「福」の書を手に
蒙令华さんと記念撮影

2024年迎春レセプション



【写真⑳】2/6 (火)
変面



【写真㉑】2/6 (火)
舞踊家、歌手、モデル、京都国際
観光大使のジャミラ・ウライムさんと

2024年度広報アドバイザー交代式



【写真㉒】3/19 (火)
広報アドバイザーのみんなで



【写真㉓】3/19 (火)
薛劍総領事と



【写真㉔】12/2 (土)
サイン入りTシャツ



【写真㉕】12/2 (土)
西宮ガーデンズにて



【写真㉖】12/13 (水)
オービック・コンサート



【写真㉗】2/17 (土)
牧野秀樹さんと一緒に



【写真㉘】5/16 (木)
「そじ坊」で会食



【写真㉙】2/17 (土)
ホワイトィうめだの
おぱんちゅうさぎ



【写真㉚】4/9 (火)
大阪の桜、三態



【写真㉛】5/22 (水)
米国移住前に記念撮影



【写真㉜】3/30 (土)
西天満公園でお花見

サイン入りTシャツが到着！(12/2)
(9頁・写真③)

岡田監督がヒネり出した「A・R・E」が流行語大賞をゲット！リーグ優勝と日本シリーズ制覇に花を添えた。そんな時期に、ジョーシン電機から阪神タイガースの糸原健斗選手(背番号33番)のサイン入りビールかけTシャツが届いた。これは、新しくソニーの85型TVを購入したことに伴う“優勝プレゼント”だが、近い将来、私にこれを着る機会はあるのだろうか？ゴルフの時に着たら似合う？それともバカにされるだけ・・・？

西宮ガーデンズ開館15周年のツリー！(12/2)(9頁・写真④)

私が通っているメインの映画館はシネ・リーブル梅田と、阪急西宮駅の西宮ガーデンズ内にあるTOHOシネマズ西宮OSの2館。両館とも株主優待のチケットを有効活用している。12/2(土)に西宮OSで、楽しみにしていたリドリー・スコット監督の話題作『ナポレオン』を鑑賞。予想通りの娯楽巨編だったが、近時、この手の映画は満席にならないようだ。他方、ガーデンズ入り口に飾られた巨大なクリスマスツリーの前には写真撮影の人でいっぱい。西宮ガーデンズ開館15周年のクリスマスツリーの美しさにうっとり！

オービック・スペシャル・コンサート2023を鑑賞(12/13)
(9頁・写真⑤)

1) 私が16年間監査役を務めた株式会社オービックが、コロナ禍のため中断していたコンサートを久しぶりにザ・シンフォニーホールで開催！“炎のマエストロ”と呼ばれる指揮者・小林研一郎氏はオービックとの縁が深いうえ、チャイコフスキーの交響曲第5番は十八番中の十八番。ラフマニロフのピアノ協奏曲第2番とのカップリングも絶妙だ。ウクライナでもガザでも厳しい現実が突き付けられ、国内政治も裏金問題をはじめとしてハチャメチャになっている昨今だが、今夜だけはすべてを忘れて、うっとりとした素晴らしい音楽に酔いしれることができた。

2) 帰りのタクシーも「GO」のアプリを使えば2,3分待つだけでスムーズに。迎車料金はかかるが、こりゃこれからも重宝しそうだ。支払いもはじめて「PayPay」でスムーズに。

中国駐大阪総領事館主催のイベント(9頁・写真⑥~⑧)

1) 「2024年迎春レセプション」ホテルニューオータニ大阪(2/6)
「新時代の地方交流・協力を推進し、中日戦略的互惠関係の強化に貢献を」

ー上海市・大阪市友好都市提携50周年記念シンポジウムとレセプションに出席。第1部は基調報告を、第2部はパネルディスカッションを聴くことで、しっかりと勉強！大量の配布品、販売品のコーナーがあったが、その中には『習近平 国政運営を語る』に並んで、私の『坂和的中国電影大観5』も。レセプションでは、豪華な食事と踊りを堪能しながら、あちこちで歓談の輪が開いた。「福」の書のサインを手に蒙令華さんと記念撮影。また、大阪の難波で新疆料理店を営む、舞踊家、歌手、モデル、京都国際観光大使のジャミラ・ウライムさんとも記念撮影。安徽省名物(?)である「変面」の舞台も楽しむことができた。

2) 「2024年度広報アドバイザー交代式及び第1回中日友好勝手連大会」(中国駐大阪総領事館)(3/19)

薛劍総領事のいつもながらの企画力と実行力に感服！一部の交代もあったが、これから1年間、個性豊かな多くのアドバイザーたちとの間で新たな交流が深まることに期待。弁護士兼映画評論家として日中友好における自分の役割をしっかりと果たしていきたい。

“マリオネット”コンサート(2/17)
(9頁・写真⑨)

1) 同じマッサージ店に通っていることがご縁で、近時、知り合いになったのが、ご近所に住む牧野秀樹、篤子ご夫妻だ。彼らは、上新庄にある社会福祉法人コミュニテキャンパスを奥様が理事長として、ご主人が特別顧問として経営している。

2) その一環として、2/17(土)に、吹田にあるライブハウス、ウノ・ア・オトロで開催された、“マリオネット”のコンサートに出席！ポルトガルギターの湯浅隆と、マンドリンの吉田剛士、という中年男のユニットは、1995年2月の結成以来、30年近く活動を続けているから、すごい。はじめて聴くポルトガルギターの音色にうっとり。CDも購入。これから、さまざまな縁を深めていくことを期待！

西天満公園でお花見(9頁・写真⑩)

3/30(土)昼間、西天満隣人会の「西天満お花見会」を開催。例年は3月末ともなれば桜は満開状態だが、今年の3月は寒い日が続いたため、まだわずか一分咲き。しかし、新しい試みとして「歌声サロン」が開催される中、なだ万の超豪華なお弁当で舌鼓を。阪神タイガースは対巨人戦2連敗から始まったが、さて“アレンバ”の行方は・・・？

大阪の桜、三態(4/9)
(9頁・写真⑪)

近年は桜の花の開くのが少しずつ早くなっていたが、なぜか今年は開花が

遅れ、4月に入ってやっと満開に。そこで、大阪を代表する、①桜の宮大橋西詰めにおける大川の桜、②帝国ホテル前の桜、③北区内のお寺と高層マンションの微妙なバランスの中に見る桜という「三態」をパチリ。

おばんちゅうさぎ(2/17)
(9頁・写真⑫)

かつてホワイティうめだでは、「待ち合わせ場所」として「泉の広場」が有名だったが、今は撤去されてしまい寂しい限り！そう思っていたが、2024年3月の今そこには水と木が合わさった生命の「Water Tree」が出現！私は「おばんちゅうさぎ」のことは全く知らないが、彼女ら(?)が乗っている美しい花車の数々に感激！大阪もいい町になったものだと思惑！

郭小莉家族3人が
5/29から米国へ！(9頁・写真⑬⑭)

1) 5/16(木)、北浜の「そじ坊」で郭小莉と会食。昨年5月から準備し、思い切ってアメリカの某レストランのチェーン店を買い取り、E-2ビザ(投資家ビザ)を獲得！E-1ビザは「貿易駐在員ビザ」だが、E-2ビザは「投資家ビザ」だから、彼女は「米国政府が認めた日本人の投資家」ということになる。こりゃ、すごい。女性投資家だからなおさらだ。もともと、レストランの経営は米国移住のための最初のステップで、真の目的は日本の民芸品等を販売する新会社の設立にある。したがって、息子を米国のハイスクールに入学させ、カフェ経営の実務を夫がするようになれば、彼女は本来の自分の夢の実現に向かって第2のステップを踏み出すはずだ。そんな彼女の努力と能力を信じると共に、その前途を期待したい。女50歳(手前)にして、この決断力に感服！加油！

2) 日本人・卓東丹桜として、5/29から夫と息子を伴ってテキサス州に移住する郭小莉が、5/22、コートビルに最後の挨拶に訪れた。日本人に帰化している15歳の息子は、186cm、78kgという素晴らしい体格。好きな勉強は経済、経営そして将来の夢は経営者になること、というからすごい。きっとパイオニア的かつアクティブな母親の血を受け継いでいるのだろう。その将来が楽しみだ。10~15年後には立派な経営者に成長し、大谷翔平の1,000億円を上回る年収を稼いでいるかも。日本はジリ貧だが、米国なら、今なお“アメリカンドリーム”の実現は可能！母親に負けず、息子もしっかり勉強し、成長して欲しい。そして、夫はそんな母親と息子をしっかりと支えてやってほしい。この3人家族のアメリカでの成功を心から期待している。加油加油！

映画評論家『SHOW-HEY』の部屋 <お薦め2作>

『無名』(23年、中国)

- 1) 「スパイもの」の傑作は『007』シリーズや『ボーン』シリーズだけ! いやいや、さに非ず。ジェームズ・ボンドは“殺しのライセンス”を持つスパイとして超有名なが、日中戦争時代の汪兆銘政権のスパイはみんな“無名”だ。
 - 2) 中国のスパイ映画の傑作は雲燁(ロウ・イエ)監督の『パール・バタフライ』(03年)、『シネマ17』220頁)や『サタデー・フィクション』(19年)、『シネマ54』90頁)だが、近時、張芸謀(チャン・イーモウ)監督も『崖上のスパイ(懸崖之上)』(21年)、『シネマ54』64頁)を発表。軍事・経済面と同じく、スパイ映画でも今や中国は米国に負けてはいない。そんな時代状況下、1999年に北京電影学院を卒業した程耳(チェン・アル)監督が、1940年代の“魔都”上海を舞台にしたスパイ映画の傑作を公開!
 - 3) 浅利慶太演出の劇団四季のミュージカル『異国の丘』(01年)、『シネマ1』98頁)は、日中戦争が泥沼化する中、九重菊麿総理の息子と蒋介石政権の司法大臣の娘が日中和平のために尽力する姿を描いた感動作だったが、本作は汪兆銘政権 vs 中国共産党のスパイ合戦の中に、満州国の繁栄を願う日本軍スパイが絡んでくるところがミソだ。
- 陳凱歌(チェン・カイコー)監督の『さらば、わが愛/霸王別姫』(93年)、『シネマ5』107頁)や、張芸謀監督の『活着』(94年)、『シネマ5』111頁)でも描かれていた時代背景と対比しながら、じっくり楽しみ、かつ勉強したい。
- 4) なお、本作は中国で約181億円を上回る大ヒットを記録したそうだが、その理由は字幕が流れ終わった後のワンシーンにある(?)ので、決してそれを見逃さないように!

『郷 僕らの道しるべ』(23年、日本)

- 1) 1989年のバブル崩壊後、“失われた10年”、“失われた20年”の中で“内向き思考”が強まった日本が次第に衰退していったのは当然だ。しかし、鹿児島出身の伊地知拓郎は、600倍の難関を突破して唯一の日本人として北京電影学院に入学し、監督科を首席で卒業。そんな彼を支え、プロデューサーとしてコンビを組んだのが、こちらも北京電影学院に在籍したことのある女優の小川夏果だから、ビックリ!
- 2) 私は、藤元明緒監督、渡邊一孝プロデューサーの『僕の帰る場所』(17年)制作を支援し、『海辺の彼女たち』(20年)や目下制作中の映画にも支援を続けている。これはミャンマー系やベトナム系の映画だが、私は北京電影学院に強い興味を持っているから、こんな強力な若手タッグへの支援は当然だ。
- 3) 2人も中国語はペラペラだが、デビュー作たる本作は、伊地知の故郷たる鹿児島で、ARRI社の最高級カメラを駆使して撮影! そのテーマは「映画から『いのち』を考える。」、キャッチフレーズは「忘れない、命の素晴らしさ。」だから、何ともクソ難しそう! そう思ったが、いやいや! 74歳の私も“童心”に戻って、“我が故郷”を思い直すとともに、あらためて“私の道しるべ”を考える機会となった。それにしても、本作の撮影はすごい。構図はすごい。自然の描写はすごい。まるで数百枚の名画が約100分間も連なっているかのような感覚ははじめてだ。
- 4) 近時の日本における若き才能の出現は、藤井聡太八冠や二刀流・大谷翔平が双璧だが、伊地知拓郎も中国の第8世代監督と競い合いながら成長すれば……。そんな期待いっぱいデビュー作に注目! 伊地知拓郎×小川夏果のコンビにも注目! こんな映画こそ興行的にも成功してもらいたいものだ。

トピックス

上海国際映画祭に『郷 僕らの道しるべ』が出品! いざ、上海へ出発!

- 1) 私が女優の小川夏果氏と出会ったのは、『熱血弁護士 坂和章平 中国映画を語る』を連載している、(公社)日本中国友好協会の機関紙『日本と中国』に連載された、彼女の『シネマティックな日々』を読んだのがきっかけだ。数回のメール交換を経て、2021年末に大阪ではじめて出会い、北京電影学院を卒業した彼女の映画制作への意欲と展望を聞いて意気投合した私は、直ちに映画関連事業展開のための資金提供を決断した。以降の彼女と伊地知拓郎監督との出会いや映画製作への道のりは劇的だ。
- 2) 彼女が女優以上に才能を発揮したのがプロデューサー業。彼女が、北京電影学院の監督科を首席で卒業した25歳の伊地知拓郎氏と組んで制作した『郷 僕らの道しるべ』が2023年に完成し、各地で上映会を開いているとの報告が届いた。DVDでそれを鑑賞した私はその出来に驚き、絶賛する評論を書いた。すると、今年5月中旬、同作が6月14日から23日の上海国際映画祭で上映されるとの報告と共に「一緒に行きませんか」とのお誘いも! これは、上海国際映画祭アジア新人部門の監督賞&作品賞にWノミネートされての出品だからすごい。広報アドバイザーに任命された中国駐大阪総領事館から勧誘された7泊8日の新疆ツアーはさすがにしんどいので遠慮したが、上海ならすぐ近く。そう判断した私は直ちにビザの準備を整え、専属通訳(?)の伊藤日実子さんと共に、6/16(日)~20(木)の4泊5日の日程で上海国際映画祭に向けて出発することに! 詳しいレポートは、次回の「事務所だより第44号(2025(令和7)年新年号)」をお楽しみに。

郷(こう) 僕らの道しるべ

全国順次公開中



監督・脚本: 伊地知拓郎
出演: 瀬上岳、野口隆太郎、西郷マユリ、蔵丸あみか、阿部隼也、古矢航之介、松元裕樹、とめ貴志、千歳ふみ、小川夏果
プロデューサー: 小川夏果
2024年/日本/93分
制作: Lethany&Co. 合同会社/文部科学省
選定映画(令和6年2月認定)

日本国の「内向き志向」が強まる昨今、「今ドキの若者は!」のセリフが急増し老花現象が目立つ私だが、400倍の難関を突破して北京電影学院に入学し、首席で監督科を卒業した25歳の新進監督に感服! 他方、ある日突然、同学院に入学し、急速に中国語がペラペラになった(??)女優が小川夏果だ。そんな二人が伊地知の故郷・鹿児島で意気投合し、世界最大の機材メーカー・ARRI社の超高級カメラを駆使して完成させたデビュー作に注目! そのテーマは? 撮影は?

冒頭、練習に励む高校球児・岳の姿が登場。高校野球は爽やかさが売りだがそれは理想で、現実には競争の中に嫉妬や羨望が混じり、いじめやしごきも。すると、せつなく日々の努力が実り、先発に抜擢された岳の現状は?

「競争」と「童心」に続くその後の物語は驚愕! 命の素晴らしさと走馬灯のように流れていく人生を実感! 日本の若き才能の出現は二刀流の大谷翔平と将棋の藤井聡太八冠が双璧だが、本作によって伊地知もその仲間! 本作の製作理念は教育映画事業とマッチし、鹿児島県教育委員会の後援を得たが、全国での劇場公開のためには夏果プロデューサーの企画力と広報力も不可欠だ。さらにコロナ禍が収まり、中国からの訪日観光客の増大と新たな地方都市観光の発掘が望まれる。昨今、タイトルもお見事な本作は中国人も必見! 近時活躍が目立つ中国の若き才能群たる「第8世代監督」との作品比べ、才能比べも一興だ。

熱血弁護士 坂和章平

中国映画を語る(84)



1999年鹿児島県松山市生まれ、大阪大学法学部卒。都市開発に関する訴訟を数多く手がけ、日本都市計画学会(石川賞)、同年日本不動産学会「実務著作賞」を受賞。坂和章平の中国映画大観(2004年)『プロのオッサン』并撞士

『日本と中国』
2024年4月1日・No. 2287

弁護士兼映画評論家 坂和章平の出版物の紹介

<まちづくり本、法律書>



(96年5月) (01年6月) (03年9月) (04年11月) (05年4月) (07年7月) (08年4月) (15年11月) (17年6月)

<実況中継シリーズ全4冊>

<その他の著書>



(17年6月) (23年1月) (12年4月) (00年7月) (02年9月) (04年6月) (06年9月) (04年5月) (05年10月)

<コラム集>

<名作映画シリーズ>

<中国語の著書>



(05年8月) (13年12月) (19年4月) (10年3月) (10年12月) (19年3月) (20年5月) (09年8月) (12年8月)

<『シネマルーム』シリーズ 既刊全55巻>



(23年1月) (23年6月) (23年12月) (24年2月) (24年7月)

